古文単語 活用形から見出し語へ ⑤

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える

名前 _____

日付 _____

右の枠の見出し語が、左の本文の中で活用した形で出ています。その語を探して――線を引きなさい。
右の2つの枠に、左から順にその語の活用の種類・活用形を書きなさい。見出し語の活用形は本文に1か所だけです。
この紙にも活用表はありません。活用形は、その語のすぐ下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへしかなしく思さる。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かなし		

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う賢くおはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし		

3 人皆退きて、まめならん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり		

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教のこまやかなる理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり		

5 偏に高き官位を望むも、次におろかなり。（徒然草・第三十八段）

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり		

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃もてなすものなり。（徒然草・第百十九段）

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす		

7 ……心地にわづらひて、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ		

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ⑤【こたえ】

名前 _____

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える　日付 _____

赤い線と赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛る折もありつる昔のこと、とりかへし**かなしく**思さる。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「思さる」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かなし	形容詞シク活用	連用形

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う**賢く**おはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「おはす」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし	形容詞ク活用	連用形

3 人皆退きて、**まめなら**ん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり	形容動詞ナリ活用	未然形

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教の**こまやかなる**理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

→ 下に体言「理」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり	形容動詞ナリ活用	連体形

5 偏に高き官位を望むも、次に**おろかなり**。（徒然草・第三十八段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり	形容動詞ナリ活用	終止形

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃**もてなす**ものなり。（徒然草・第百十九段）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす	動詞サ行四段活用	連体形

7 ……心地に**わづらひ**て、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ	動詞ハ行四段活用	連用形